

日本橋駅(地下鉄堺筋線・千日前線)⑤

司馬遼太郎が歩いた日本橋と上町台地

近鉄日本橋駅(近鉄難波線) なんば駅(南海本線・高野線)
 谷町九丁目駅(地下鉄谷町線・千日前線) 大阪上本町駅(近鉄大阪線・難波線)

「大阪あそ歩マップ集」
 その3 No.147



地下鉄日本橋駅

①日本橋(古書店街)

かつての日本橋は東京・神田と並ぶ古書店街で、若いころから司馬はよく通い詰めました。特に明治45年(1912)創業の老舗古書店・高尾書店(2006年閉店)は司馬が足繁く通ったことで有名です。高尾書店は戦後、梅田の大阪駅前第1ビルに移転しますが、司馬も新聞記者となって産経新聞大阪本社に勤務していたので、昼休みになるとよく同店を訪れました。

②御蔵跡図書館跡

大正10年(1921)開館。御蔵跡というのは江戸時代、大坂城の備蓄米の蔵があったことから、そう名づけられました。小さい図書館でしたが、司馬は中学1年から出征時まで「図書館にある本の全部といってもいいくらい読んでいた」(『司馬遼太郎が語る日本Ⅲ』)と語るほど通い詰めました。

③新選組大阪屯所(萬福寺)

文禄3年(1594)開創。幕末には大坂の不穏な倒幕運動を取り締まるため、新選組が屯営しました。近藤勇、土方歳三、沖田総司、井上源三郎、谷三十郎、鈴木三樹三郎、山崎烝などが出入りしたと推測されます。司馬は20歳のときに子母澤寛の小説『新



選組始末記』を読んで多大な影響を受け、作家となってから『燃えよ剣』『新選組血風録』といった新選組を題材とした小説を書き、人気作家となりました。

④源正寺坂

上町台地の崖が坂となっており、司馬が書いた『大阪八景』では「江戸時代、船場の商家の若い手代たちが、人目をしのぶ恋をとげるために、この坂をのぼり、生玉の出逢茶屋へしのびやかに入った。とすれば、恋の坂と言えぬことはない」と記しています。じつは司馬の母校・上宮中学や大阪外語学校への通学路でした。

⑤齡延寺

『一杯のコーヒー』によると、司馬は大阪外語学校の1年生のときに蒙古語科の同級生と一緒に同寺へ参禅したといえます。ところが、2年生ともなると心齋

橋の映画館やカフェに通い詰めて「小市民的な悦楽」に耽りました。この安穏な学生生活は、学徒出陣によって強制的に終わりを告げました。



⑥生國魂神社

上町台地は大坂城(古代は難波宮、中世は石山本願寺)から高津宮、生國魂神社、四天王寺を経て住吉大社あたりまで続く、約12キロに及ぶ大阪市中を南北に連ねる台地です。1500年以上もの長きに渡る「歴史都市・大阪」の主要舞台で、まさに司馬文学の源泉となった土地といえます。

地下鉄谷町九丁目駅

